

# 令和2年度 個別作業計画（案）

資料 1-3

種別	モデル地区名	計画策定者	作業予定日	作業概要（目的、範囲、方法等）	必要人員	必要な道具	必要な消耗品	その他必要な事項
外来種駆除	池のくるみ (ハルザキヤマガラシ)	小和田牧野 農業協同組合	6月6日(土) 予備日6月7日(日)	池のくるみ地区に侵入が見られる「ハルザキヤマガラシ」を駆除する。駆除範囲は高標高地から種が流入しているおそれがあるため、お花畑駐車場付近から池のくるみ一帯を行う。駆除方法としては県が作成した外来植物駆除対策の手引（以下「手引」という。）に基づき、刈取りにより行う。ロゼット型の個体（幼体）は抜取りにより行うが、抜取りの場合は土壌の攪乱を防ぐため、抜取り後は復元し、周辺の在来植物への影響に十分配慮する。処理については焼却処分とする。	50人程度	剪定バサミ、草抜き、移植ゴテ、種子除去マット等	ゴミ袋、手袋、お茶等	・駆除した外来植物の処理は、ゴミ袋に入れて密閉し、諏訪市所有の運搬車両により諏訪湖周クリーンセンターに運搬し、焼却処分とする。 ・ボランティア保険未加入者については、保険加入手続を行う。
	車山高原 (ヘラバヒメジョオン・フランスギク)	北大塩財産区 車山高原観光協会	6月25日(木) 予備日6月26日(金)	車山高原に侵入が見られる「ヘラバヒメジョオン」及び「フランスギク」を駆除する。スキー場内のヘラバヒメジョオンの駆除については、手引に基づき刈取りで実施する。ピーナスライン沿いに繁茂が見られるフランスギクの駆除については、地上部及び地下茎の駆除が必要であることから極力抜取りにより実施する。抜取りの場合は土壌の攪乱を防ぐため抜取り後は復元し、周辺の在来種への影響に十分配慮する。処理については焼却処分とする。	50人程度	草刈鎌、剪定バサミ、草抜き、移植ゴテ、種子除去マット、交通安全対策用具等	ゴミ袋、手袋、お茶等	・駆除した外来植物の処理は、ゴミ袋に入れて密封し、茅野市所有の運搬車両により諏訪南清掃センターへ運搬し、焼却処分とする。 ・道路沿いの作業では交通安全対策を講じる。 ・ボランティア保険未加入者については、保険加入手続を行う。
	強清水湿地付近 踊場湿原入口 (オオハンゴンソウ)	上桑原牧野 農業協同組合 小和田牧野 農業協同組合 諏訪市	第1回 7月8日(水) 予備日7月9日(木) 第2回 8月5日(水) 予備日8月6日(木)	強清水湿地付近及び天然記念物踊場湿原入口付近に侵入が見られる特定外来生物「オオハンゴンソウ」を駆除する。駆除方法としては手引に基づき、刈取り（刈払機及び剪定バサミ）又は地下茎からの掘取りにより行う。地下茎の掘取りに当たっては、土壌の攪乱を防ぐため掘取り後は復元し、周辺の在来植物への影響に十分配慮する。刈取りの場合は同じ場所で年2回実施する。駆除できない個体が残った場合は花芽摘みを行い、霧ヶ峰スキー場、キャンプ場に繁茂する個体を含め、できるだけ残さないように駆除する。駆除した個体は外来生物法の規定及び長野県防除計画に基づき、焼却処分を行う。	60人程度	刈払機、剪定バサミ、草抜き、スコップ、移植ゴテ、万能袋、熊手、種子除去マット等	ゴミ袋、手袋、お茶、燃料、替刃等	・駆除した外来植物の処理は、ゴミ袋に入れ密封してトラックまたはパッカー車により諏訪湖周クリーンセンターに運搬し、焼却処分とする。 ・刈払機は経験者のみ使用する。 ・ボランティア保険未加入者については、保険加入手続を行う。
草原再生	インターチェンジ草地 (ススキ群落)	下桑原牧野 農業協同組合	8月26日(水) 予備日8月27日(木)	霧ヶ峰インターチェンジ付近の強清水園地はススキが優占しているため、ススキを刈取り草原外へ搬出することにより、ススキにダメージを与え、多様な植物が生育する草原に再生する。作業方法としてはなるべく他の植物を刈取らないようススキを株ごとに刈払機で刈倒し、万能袋や防災シート等を使って堆積する。堆積したススキは、堆肥化施設に搬入し、堆肥として活用する。作業範囲は概ね1ヘクタールを目標とする。	60人程度 ・刈取班20人 ・運搬班40人	刈払機、熊手、手箕、万能袋、防災シート、交通安全対策用具等	手袋、お茶、燃料、替刃等	・必要に応じて道路使用許可を取り、道路横断箇所では交通誘導員を配置する等の安全対策を講じる。 ・刈払機は経験者のみ使用する。 ・ボランティア保険未加入者については、保険加入手続を行う。
	車山肩東 (ニッコウザサ群落)	霧ヶ峰高原 牧野農業協同組合	刈取り作業 9月5日(土) 予備日9月6日(日) 運搬・搬出作業 9月8日(火) 予備日9月9日(水)	車山肩東側の防鹿電気柵内ではニッコウザサが優占しているため、ササを刈取り草原外へ搬出することにより、ササにダメージを与え、多様な植物が生育する草原に再生する。作業方法としては、なるべく他の植物を刈取らないようにササを刈払機で刈倒し、万能袋や防災シート等を使って草原外へ搬出する。刈取り範囲については、防鹿電気柵内を4つのエリアに分け、適宜ローテーションしながら概ね1ヘクタールを目標とする。搬出したササについては、ピーナスライン下の人工林へ堆積する。	刈取り作業 20人程度 運搬・搬出作業 40人程度	刈払機、熊手、手箕、万能袋、防災シート、交通安全対策用具等	手袋、お茶、燃料、替刃等	・必要に応じて道路使用許可を取り、道路横断箇所では交通誘導員を配置する等の安全対策を講じる。 ・刈払機は経験者のみ使用する。 ・ボランティア保険未加入者については、保険加入手続を行う。